

## グループホームかもめの家

症 例 概 要      利用者氏名：S・H様（80代 女性 要介護5） 3階ご利用者

利用期間：平成23年6月 ～ 平成29年11月

経過：入居されて約6年半、日々の生活の中でキーパーソンである長女様よりクレームやご指摘を頂戴し職員の信頼を失いかけていましたが、介護スタッフ及び医療連携、PT、OTとのチームケアでS・H様の最期をかもめの家で安らかに看取り出来、かつご家族より感謝のお言葉を頂戴する事ができた症例。

### 内 容

入居されてから、度重なる骨折等で入院を繰り返し、その都度ケアやリハビリを行い回復されておりましたが、徐々にADL低下傾向になり、ご家族様には多大なるご迷惑とご心配をおかけし、かもめの職員との信頼関係が崩れてかけておりました。

今年7月より体調不良で熱発を繰り返され、食欲も低下し、主治医である二宮Drより看取りについて話合いがもたれましたが、長女様はお母様の「最期」について、かもめの家での看取りで対応するか、病院に転院されるか大変悩まれた結果、かもめの家での看取りに同意をして頂きました。その後も長女様の中では色々悩まれている様子であり、その都度看護や介護職員と話をし、不安な気持ちに少しでも寄り添わせて頂きました。

長女様の願いは「母が馴染みのある場所で笑顔で過ごしてもらいたい」という希望が強くあり、「私は母の為に職員から嫌われても構いません。母の為なら私の命を捧げても構いません。」と仰る程お母様想いで、その思いを汲み取るべく、毎日朝・晩に詳細な様子をメールで報告し長女様の信頼を取り戻せるよう取り組みました。次第にチーム一丸となって、S様と長女様に安心した生活が出来るようになりました。

平成29年11月初旬、長女様がお看取り中ご逝去され、最期を迎えた時に「かもめの皆様にはお世話になりました。感謝しております。」とお言葉を頂戴しました。日々の中での長女様からのご指摘は職員一同に対して大変勉強になり、介護の根本的な部分を目覚めさせて頂いた経験でもありました。

今回のお看取りの症例を踏まえ、今後もご利用者1人1人に寄り添い1日1日を大切に、人間らしく、輝かしい日々を過ごせるように接すると共に、ご家族様のご指摘に対しても誠心誠意にお応えできるよう、安心を超えた感動を提供できる様職員一同邁進出来たらと思います。この症例はキラキラ介護賞に値すると思ひ推薦させていただきます。